

社会福祉法人原町成年寮

平成 30 年度事業報告

事業計画（事業報告）

- ① 第 7 次プロジェクト（2018～2020）の提案と実行企画
第 7 次プロジェクトは下記の事業計画に反映されている。各事業報告において検証したい。
- ② （第 2）アンジュの開設と高齢化に対応する通所事業所および作業内容の再検討
第 2 アンジュは生活介護事業所シャングリラとして開設した。入浴サービスを中心とした事業を行っている。家族やグループホーム世話人の身体的心理的負担軽減につながっている。作業内容の検討については、高齢化が進んでいるアンジュが受け持っていた立石図書館での喫茶店タッセル及びリサイクルショップゆず屋の運営を奥戸福祉館に移管した。またグループホームに土曜日用のパン配食を奥戸福祉館と Craft でエリアシェアすることとした。今後においても法人内通所事業所において作業内容の譲渡や重なる作業等の整理を検討していく。
- ③ （第 2）東立石生活寮の開設と高齢化対応グループホームの検討
第 2 東立石生活寮を開設し、高齢化していくグループホーム利用者の生活の質向上に寄与することとなった。既存の建物構造という理由のみで地域生活を継続することが困難になるという状況を今後も変えていく。
- ④ 考課制度の適正な執行と人材育成システムの確実な実行
知的障害者援助は人でしかできないことを認識し、人材育成を目的とした考課制度を導入した。初年度ということもあり、いくつかの課題を認識した。そのための改善を次年度の事業計画に反映させた。
- ⑤ 就労支援システムの確立（就労定着支援等）
就労継続（生活介護）から自立訓練、就労移行、就職へと向かう連続した切れ目のない就労支援システムを構築した。そして就労定着支援により継続就労をより確かなものとするのできつつある。今後も連携を重視し、より良いシステムを構築する。
- ⑥ 地域移行を推進するため地域移行コーディネート事業の推進（東京都公募への了承）
東京都から地域移行コーディネート事業（新規開拓移行促進員）を受託した。主任等研修を兼ねて都外施設を見学し、置かれている状況を認識できたことは有意義であっ

た。今後は移行に対する相談等に応じていき、地域移行者が増加するよう活動する。

⑦ 葛飾通勤寮を初めとした地域生活援助システムへの模索（自立生活援助等）

地域生活援助におけるシステムとして宿泊型自立訓練、通勤寮連携型グループホーム、共同生活援助、サテライト型グループホーム、自立生活援助、居宅介護、地域定着とメニューをそろえることができた。今後は利用者のニーズに応えることができるようにサービスを充実させる。

以上